



オリーブ 便り Olive News

2020.12.01

No.438

香川大学 医学部附属病院 香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 田宮 隆

基本理念 患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。

2020年度の医師臨床研修マッチング結果について

香川大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター センター長 南野 哲男

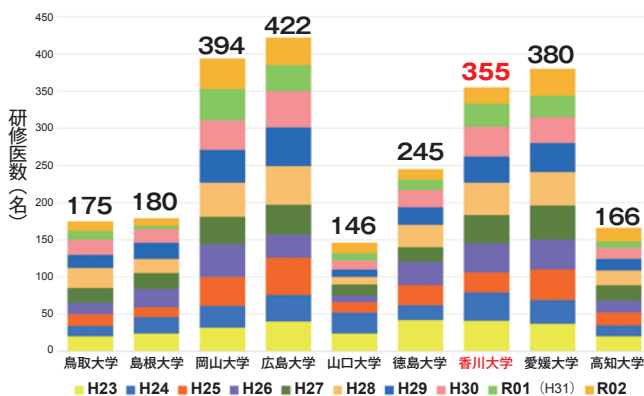
令和3年度から医師になる医学科生らが臨床研修病院を選ぶ「2020年度マッチング結果」が、10月22日に公表されました。本院のマッチ者数は、MANDEGANプログラム(17名)および小児科プログラム(4名)、産婦人科プログラム(1名)をあわせて計22名でした。本院への想い・期待を抱いてくれた皆さんが、来春より本院で研修開始予定であることを大変嬉しく思います。

令和2年度からは、卒後臨床研修制度が大幅に変更となりました。必修診療科での研修期間が増え、新たに外来診療・チーム医療の実践など必修項目も設定されています。また、医師だけでなく看護師等の多職種による研修医評価も必要となります。院内スタッフの皆様には、研修医指導へのご理解とご協力をお願いいたします。

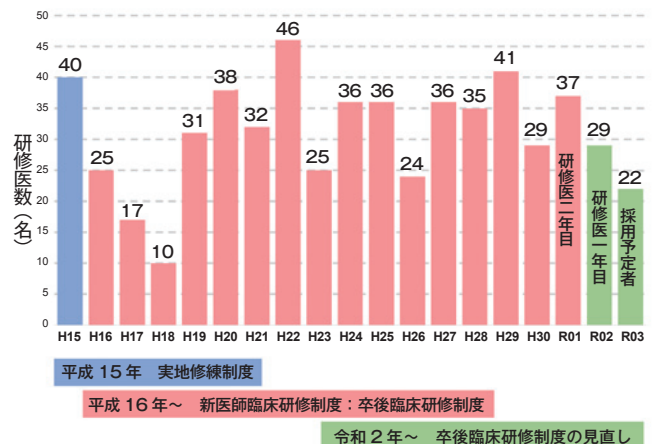
2020年5月より長年卒後臨床研修センターでご活躍された松原前センター長から大役を引き継ぎ、安田真之先生にも副センター長として加わっていただき、新体制になりました。また、今回のマッチングは、例年と異なり新型コロナウイルス感染症対策のため、病院見学や面接試験などにおいて多くの制約を受けました。本年度のマッチング結果は、中国四国国立9大学病院の中でもマッチ数は4番目、昨年より9名減少したという大変厳しい結果でした。ここ数年は地方国立大学病院では、研修医確保が大変厳しい状況に陥っており、地域医療を担う医師教育、育成に多大な影響を及ぼすことが危惧されております。今後、多くの医学生からキャリアアップのファーストステップとして本院が選択される為に、医療の社会的ニーズの変化に対応した研修を提供することが、さらに重要となると考えています。

医学部教育センター、医師キャリア支援センター、地域医療教育支援センター、卒後臨床研修センターが一気通貫体制で医師養成に臨むだけでなく、病院全体のムーブメントとして院内スタッフの皆様にも研修医教育に関わって頂き、研修医が医師としてのキャリアアップに夢を持てる大学病院であり続けることが大切と考えます。引き続き研修医育成にお力添えの程よろしくお願い申し上げます。

中国四国9国立大学病院 大学別
医師臨床研修マッチング者数の累計(過去10年間)



本院の医師研修医数



科長の横顔

座右の銘、ポリシー

まず大義は何か、いちばん大切にしなければならないことは何かを考えます。次に、手立てがフェアかどうかを考えます。それぞれにしかできないことや、やりがいを持って取り組めることを優先します。そして、おのこの生活や事情を重んじつつ、損得を超えたところで、どのように成長しながら取り組みを続け、やり抜くことができるかを考えます。

診療科紹介

皮膚科は2020年4月に担当医全員が入れ替わり、生まれ変わったばかりの診療科です。限られた医師スタッフで患者さんに対する診療のパフォーマンスを最大限に発揮できるよう、病棟、外来スタッフはもちろん、各部署や事務スタッフの皆さんの協力を得て、院内の診療協力と地域連携の推進に努めています。



香川大学医学部附属病院
皮膚科
科長 大日 輝記

師長の横顔

座右の銘、ポリシー

「置かれた場所(ところ)で咲く」渡辺和子著、この言葉は部署異動を命じられた時に先輩が贈ってくれた言葉です。現行部署でやりがいを感じていた時の異動でした。「患者さんはどこでも同じよ。貴方らしくそこで輝いてね。」と、何かにつまずいた時には原点に戻る言葉です。縁あって出会ったスタッフが、同じように自分らしく患者さんに向き合えて看護ができる病棟を目指しています。

病棟紹介

東病棟6階、7床が皮膚科の病棟です。新制皮膚科がスタートして7か月。高齢の難治性皮膚疾患患者が多く入院してこられています。皮膚の観察、処置だけでなく全身状態の観察、ADL(日常生活動作)を低下させないケア・アセスメントなど看護師の役割は大きいと感じています。

10月26日より病棟と皮膚科外来の一元化に向けた体制づくりを開始しました。看護の専門性を発揮させて医師、外来スタッフと連携し患者さんが安心して治療が受けられるよう日々奮闘しています。



香川大学医学部附属病院
東病棟6階
師長 森 初音



皮膚科スタッフ集合写真



東病棟6階スタッフ集合写真

子どもの出血には注意を

香川大学医学部小児科学 准教授 岡田 仁

子どもがけがをしたときに血が出て(出血)、少し時間が経過すると血が止まる(止血)ことを経験された方はたくさんおられると思います。出血した時は体の中で止血する仕組みがあるからです。

けがをすると血管が破れ、血液が血管外に出る出血がおこります。破れた血管の傷を小さくするため血管が収縮し、血小板という血球がくっついて傷を塞ぎます。そして、血液を固めるたんぱく質(凝固因子)が血小板の塊をおおって止血が完了します。通常数分以内に止血しますが、問題があると傷口からの出血がなかなか止まらないとか、ぶつけた所がすごく腫れるということが起こります。

血小板が少なくなった場合には、ぶつけてもないのにあざや小さい赤い点々(点状出血)が皮膚に多くみられたり、鼻血が止まりにくくなったりします。あざは紫斑と呼ばれますが、必ずしも紫色ではありません。出血した場所や時期によって見え方は赤や緑、黄色などさまざまです。原因として、免疫性血小板減少性紫斑病のように血小板だけ少なくなる病気から、小児がんのような血小板以外にも悪いところがある重い病気までさまざまです。

凝固因子が低くなる場合は、関節が腫れて痛くなったり(関節内出血)、筋肉が腫れて痛くなったり(筋肉内出血)する症状が多くみられます。原因の一つとして血友病があり、生まれてすぐの赤ちゃん(新生児)はビタミンKが関係する凝固因子の低下(ビタミンK欠乏性出血症)のため、うんちに血が混じることがあります。

止血機構に問題ないにもかかわらず多くの紫斑がみられる子どもの中には、身体的虐待を受けている場合があります。なぐる、ける、熱湯をかける、おぼれさせる、タバコの火を押しつけるなどがあります。虐待を受けていることをなかなか周りにはしゃべれない、しゃべらない子が多いので周囲の人が見つけてあげる必要があります。

児童虐待防止法には、児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は速やかに児童相談所などに通告(連絡)しなければならないと定められ、通告義務の対象は「を受けたと思われる」場合となっています。通告によりその子の命が守られることがあります。

毎日新聞「四国健康ナビ」令和元年11月19日掲載分

第20回香川大学医学部・香川県連絡会議を開催

香川大学医学部 総務課

去る10月20日(火)に、第20回香川大学医学部・香川県連絡会議が本学医学部管理棟5階大会議室で開催されました。

この会議は、香川県における保健・医療・福祉の一層の充実を図るため、本院と香川県との連携・協力の方策について広く意見交換することを目的に毎年開催されています。

今年度は、田宮病院長の進行により、香川県の医療課題に対する本院の取組等について活発な意見交換が行われ、本院と香川県が今後も情報交換・協力していくことが再確認されました。

火災避難訓練を実施しました

香川大学医学部 管理課

今年度は、11月10日(火)に密接・密集を避け、少人数の職員で「病院火災を想定した避難誘導訓練」「消火器操作訓練」を実施しました。



初期消火訓練



消火器訓練の様子

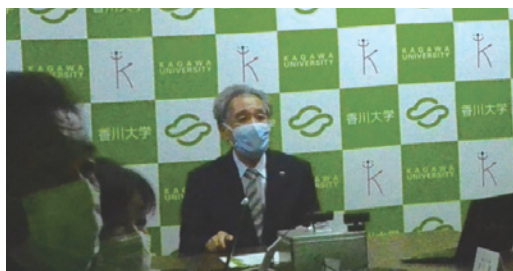


屋内消火栓の説明

香川大学医学部附属病院 副病院長(地域連携・広報担当) **南野 哲男**

10月1日(木)に、香川大学医学部において、令和2年度関係医療機関及び同窓会讃樹會合同懇談会を開催しました。この懇談会は地域の関係医療機関との診療連携や協力体制をより強化すること及び大学病院の現状等を報告することを目的としています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWEB配信にて、約1時間の本院の近況報告とさせていただきます。関係医療機関、同窓会及び本院から総数55施設のWEB参加登録がありました。

本会は、横井副病院長の司会のもと、田宮病院長の挨拶および大学病院の現状と将来構想等について説明があり、次に臨床教育研修支援部長の南野より臨床教育研修支援部の概要についての説明を行いました。続いて、新任の皮膚科の大日(だいにち)教授、薬剤部長の小坂教授より診療科等の教育・研究・診療の概要及び展望について紹介がありました。初めてのWEB配信となりましたが、メール等から病院経営及び医学実習について質問があり、活発な議論が行われました。



臨床研究に関するご案内

香川大学医学部 **倫理委員会委員長**

治験審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院 **臨床研究審査委員会委員長**

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに對して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー 2020.12~2021.1月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
12/6 日	13:00~16:00	サンサン館みき	肝臓病 市民公開講座	肝炎治療相談窓口	(087)891-2468
12/10 木	14:00~15:00	西病棟1階カンファレンスルーム	肝臓病教室	肝炎治療相談窓口	(087)891-2468
12/13 日	8:50~17:25	西病棟7階カンファレンスルーム	緩和ケア研修会	医療支援課 医療連携支援係	(087)891-2452
1/28 木	14:00~15:00	西病棟2階カンファレンスルーム	肝臓病教室	肝炎治療相談窓口	(087)891-2468

イキイキさぬき健康塾は新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、**2021年3月末まで中止とさせていただきます。**新しい日程が決まり次第改めてご案内申し上げます。

編集委員会 (50音順)

(2020年12月現在)

阿部(看護)、荒井(検査)、井町(外来)、樫原(管理)、小坂(薬剤)、筒井(経営企画)、常森(病棟)、仁尾(医療支援)、前川(医事)、南野(副病院長)、門田(放射線)、横井(医療情報)、横川(総務) [委員長 田宮病院長]